



「学びあい・支えあいの地域教育の拠点の創生」

沖縄大学

「学びあい・支えあいの地域教育の拠点の創生」

沖縄大学

- ◎ 1972年 日本復帰、沖縄大学の存亡危機。
- ◎ 1978年 新生沖縄大学がスタート
大学の基本理念を定め、
地域に根ざした研究・教育を宣言(創立20周年)



沖縄大学の基本理念

地域に根ざし、地域に学び、
地域と共に生きる、開かれた大学

1958年に創立した沖縄大学は、
戦後沖縄の半世紀をのりこえ、

来年2008年に
創立50周年を迎えます。



沖縄大学は2008年、
創立50周年を迎えます。

【沖縄大学の特徴】①



学生数2000名ほどの小規模大学

学んだ知識よりも学ぶ意欲を中心に
面接中心で入学してくる学生たち

(学びたいという意欲は高い)



・基礎学力に幅がある(基礎学力のサポートが必要)
教職員によるきめ細かい対応が求められる。

・経済的な厳しさと将来への展望が持てないため
中途退学する学生が多い(8%)
将来への夢、可能性、展望を強く求めている。

【沖縄大学の特徴】②



沖縄本島南部(那覇市)にある大学

沖縄出身の学生が圧倒的に多い(87%)
(特に本島南部の学生が半数を占める)



卒業後の沖縄、出身地域が活性化・安定化することを
望んでいる

南部広域市町村圏事務組合との連携(2004年)
南部地域ガイド「なんぶ丸ごと!ガイド」養成講座

沖縄は本土に比べ失業率が高い(約2倍)
(収入も本土の71%と低く、若年失業率も高い)



持続可能な地域社会の形成が求められている

【沖縄大学の特色】③



ユイマール(相互扶助)の文化風土がある

- ・エコキャンパスクラブが設立され、大学をエコキャンパスにする取組に学生が参加(2001年)
(エコ学園祭、地域のエコ化、エコシティ化へのEMS構築支援)
- ・聴覚障がい学生へのノートテイク活動(2003年)
(ノートテイクサークルが結成され4人の障がい学生を約60名の学生が支えている)



サークル活動、大学祭などの学部及び日常的支え合いの関係が生れてきている。

2008年度は沖大は創立50周年を迎えるのにあわせ、「沖縄大学は私が変わる」(創立記念日)シンポが学生主導で行なわれてきている(2005年より毎年)

・学生主体のエコキャンパス活動(2001年)

学生たちのとりくみ:エコ学園祭

- 2001年 ゴミの分別収集と組成分析にとりくむ。
- 2002年 Dish Return Project を導入。
- 2003年 DRPは県や市のイベントにも導入される。
学生たちはアドバイザーとして活躍。
OB・OGが中心になって環境NPOを設立、
エコアンテナショップなども運営。

3年で、燃やすゴミは65%減(初年度比)、燃やさないゴミは85%減を達成した。

第一回
全国大学生環境活動コンテスト
2003 12.20(sat) - 21(sun)

2003年特別賞、2004年入賞



MYWAY
学校と社会で
かかわっている
若者を紹介

難聴者とのかけ橋

沖縄大学
ノートテイクサークル



・聴覚障がい学生へのノートテイク活動(2003年)

もし自分が障害を持っていたら、と考えたことはあるだろうか。眼で見る・耳で聞く・歩く・走るなど、健常者といわれる人にとって、それができない状態というのは想像するのも難しい。そういった障害を持つ人たちは、主に勉学の面でサポートする活動のひとつがこの「ノートテイク」だ。

難聴の人は黒板の文字は読めても講師の言葉は聞こえない。そこで、講師の音声情報をノートに書き写し、文字情報にすることで、難聴者が健常者に遅れて講義を受ける手助けをする。いわば難聴者の耳となる活動といえるだろう。沖縄大学では約3年半前から、学生である田中息吹さんを中心にこの取り組みが進められており、多くの学生がノートテイクに関わっている。

【沖縄大学の特色】④

学生支援のニーズが極めて高い
→多様な学生に対応したきめ細かな支援を実施



・生活支援

学生生活支援室／メンタルヘルス支援／セクシャル・ハラスメント防止／父母懇談会／満足度アンケート／経済的支援／課外活動支援／障がい学生支援／留学生支援

・修学支援

入学前教育／新入生オリエンテーション／問題発見演習とアドバイザー制度／リメディアル教育／コンピュータによる履修登録／授業評価アンケート／16単位未満学生への面接指導

・キャリア支援

キャリア講座／各種資格講座／就職率・就職希望率の向上

「学生生活支援室」立ち上げ 精神面や生活をケア

本学がハル
全年代が来た

4



「学生生活支援室」を開設

沖大

「鹿児島県立大学」で「学生生活支援室」を開設した。県立大学としては初の試みで、学生生活に悩む学生を支援する。学生生活支援室は、学生生活に悩む学生を支援する。学生生活支援室は、学生生活に悩む学生を支援する。

声掛けで「脱落」防止



「何でも相談室」として学生を待つ職員 野村陽子さん。相談に訪れる学生も多い。沖縄大学

「何でも相談室」として学生を待つ職員 野村陽子さん。相談に訪れる学生も多い。沖縄大学



「学生生活支援室」は、学生生活に悩む学生を支援する。学生生活支援室は、学生生活に悩む学生を支援する。

「学生生活支援室」は、学生生活に悩む学生を支援する。学生生活支援室は、学生生活に悩む学生を支援する。

本学における新たな取組

学びあい・支えあいの地域教育の拠点の創生 ～地域ぐるみで「共創力」を育む学生支援～

・共創力・ピアサポート・地域教育・学生ユイマール・地域教育センター

【キーワード】



本学における学生支援の基本方針

どのような学生を育てるか(学生像)

「競争力」→「共創力」(地域の未来を切り開く力)
共創力のある人材の育成、

① 共創力

どのように学生を支援するか(発想の転換)

「教職員による支援」→「学生同士の支えあい」
大学は学生ユイマールを支える役割を果たす

② ピアサポート

③ 学生ユイマール

どのように地域と関わるか(社会での実践)

地域と関わる力
→地域に学ぶ機会をつくる
地域に学ぶ力
→地域に育ち、育てられる機会をつくる

④ 地域教育

⑤ 地域教育センター

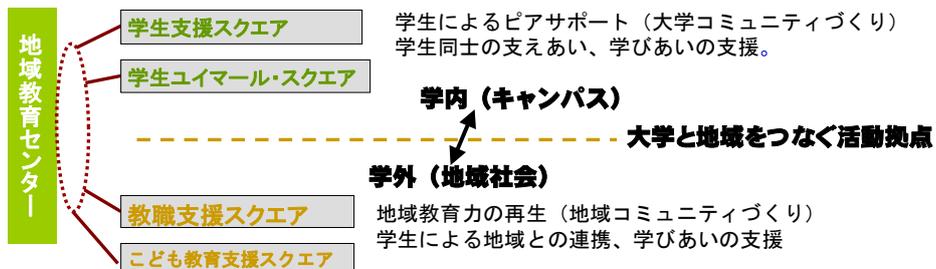
地域の問題を見つけ、解決する役割を担い、
地域コミュニティを活性化させる力をつける

新たな社会的ニーズと学生支援の方向性

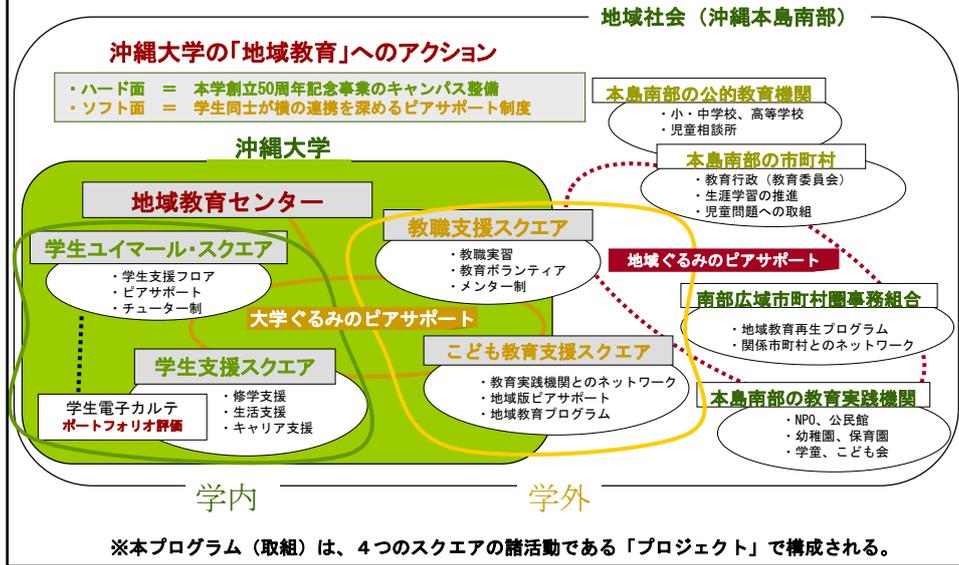
求められる学生像

- ・共創力のある学生
- ・ユイマール再生による地域コミュニティの活性化を担う学生

地域教育(=大学教育)による学生支援

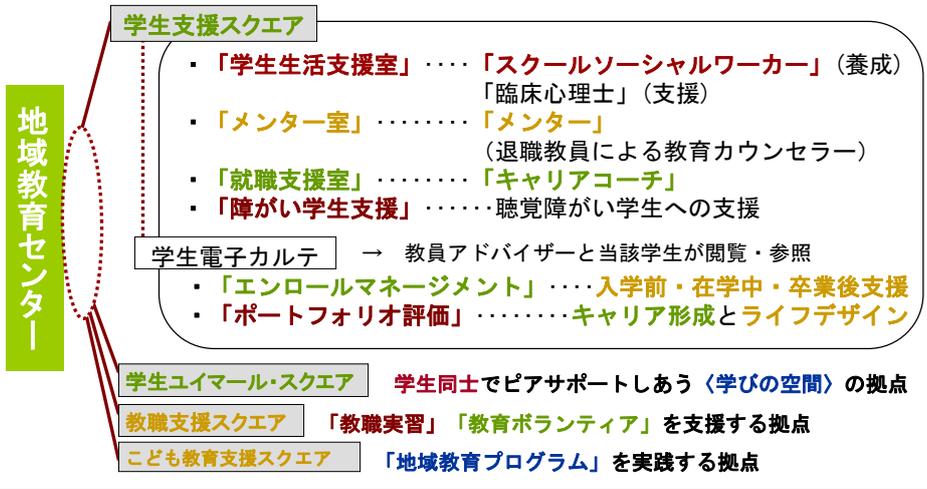


「地域教育センター」による地域教育の拠点づくり



【学生支援スクエア】学内支援① 大学によるきめ細かな学生支援

教職員で「生活支援」「修学支援」「キャリア支援」を支援する拠点
 → 学生同士の支えあい、育ちあいの支援（「大学コミュニティ」の機能を強化）



【大学ぐるみのピアサポートの実現可能性】

「学生生活支援室」の利用者数及び退学・除籍・休学者数

(2006年)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	0	6	9	4	2	0	18	12	7	12	4	4	78
退学者数	15	1	2	4	0	12	9	2	1	4	6	32	88
除籍者数	23	0	2	10	0	16	0	1	27	0	0	11	90
休学者数	61	0	0	0	0	0	28	0	0	0	0	0	89

(支援室利用者が限られており、学生支援プログラムを強化する必要がある。)

学生部の障がい学生への情報保障支援

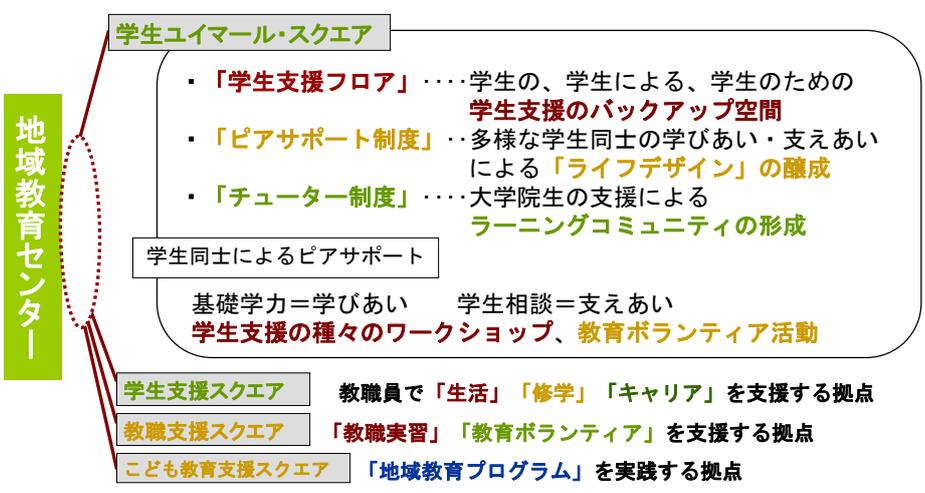
	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
ノートテイク数 (学外者)3	7	42	49	61	
サポートした講義数	14	60	369	954	996
聴覚障がい学生数	1	1	2	3	4



【学生ユイマールスクエア】学内支援② 学生同士の支えあい

学生同士でピアサポートしあう〈学びの空間〉の拠点

→ 学生の 学生による 学生のための 学生支援



学生同士のユイマール活動（相互扶助）

- ・開学記念日シンポ「沖縄大学は私を変える」
→ 学生が主導して、学生提案をまとめ、全学での議論を実施。大学を共創する試み。
- ・学生たちのノートテイク活動の広がり
→ 共創力育成の大きな可能性

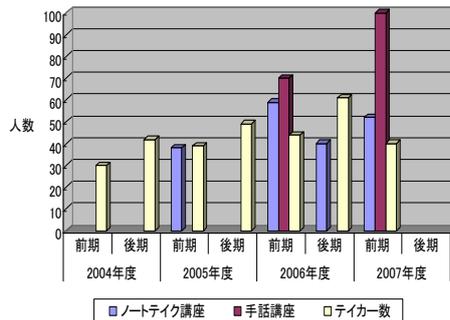
07年度学生提案プロジェクト
25件のうち5件が採択

- ・沖大式フリマ「エコマーケット」
- ・「沖縄大学50周年記念賞」
- ・マイバック講座
- ・再考食育プロジェクト
- ・壕ガイド養成プロジェクト

学生参画企画「沖大は私を変える」



ノートテイク講座受講者数とテイクサークル数の推移



サークル活動として多くの学生有志が参加

MYWAY 難聴者とのかけ橋 沖縄大学 ノートテイクサークル



もし自分が障害を持っていたら、と考えることはあるだろうが、誰でも心で通じ合える人と、健康者とかわる人にとっても、それができない状態というのは想像するの難しい。そういう障害を持つ人たちは、主に相手の声でサポートする活動のひとつがこの「ノートテイク」だ。
 障害のある人は単純な文字は読めるが、複雑な文章は読めず、読める言葉は聞き取れない。そこで、読める言葉に文字を添えて、文字情報にすることで、障害者が読めるようにしてあげることが、この活動の目的だ。沖縄大学では約3年半前から、学生である聴覚障害者や聴覚障害者の学生が主体となり、多くの学生がノートテイクに関わっている。

2006年3月12日沖縄タイムズ別冊



2006年10月沖縄タイムズ別冊

聴覚障がい学生が活動の主体
ユイマール（支えあい）の関係

【子ども教育支援スクエア】 学外支援① 地域での共創力の涵養

「地域教育プログラム」を実践する拠点

→ 子ども教育支援をとおして、学生が地域コミュニティづくりに参加

地域教育センター

こども教育支援スクエア

- ・「教育実践ネットワーク」…保育園、小中学校との連携
放課後・週末の子どもの居場所作り
- ・「地域版ピアサポート」…地域の青少年教育関係者、市民の協力による地域教育の実践
- ・「地域教育プログラム」…学生と市民の共創による子ども教育プログラムの展開

こども文化学科の開設（2007年）

→ 沖縄子ども研究会の結成

- ・旧よりみや保育園を会場に地域の「子どもサロン」を準備中
- ・寄宮中学校の総合的な学習の時間「地域を知る」への協力
- ・寄宮中学校の早朝「読み聞かせ時間」への協力

学生ユイマール・スクエア

学生同士でピアサポートしあう〈学びの空間〉の拠点

学生支援スクエア

「生活」「修学」「キャリア」を支援する拠点

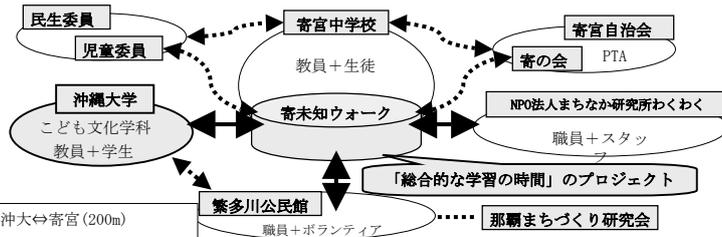
教職支援スクエア

「教職実習」「教育ボランティア」を支援する拠点

こども教育支援に関する芽だしの近況

2007年度の「こども教育支援」に関する取組（沖縄大学人文学部こども文化学科）	
2007年4月	<ul style="list-style-type: none"> ・寄宮中学校から「総合的な学習の時間」への教育ボランティア協力の依頼 ・中学校一年生対象のプロジェクト「寄未知ウォーク」の実践 ・沖縄大学、繁多川公民館、まちなか研究所との協力体制の確立 ・早朝読み聞かせの教育ボランティア（学生32名/PTA8名）
2007年5月	<ul style="list-style-type: none"> ・旧よりみや保育園から「子どもの居場所づくり」プロジェクトへの協力依頼 ・中学校一年生対象のプロジェクト「寄未知ウォーク」の実践 ・那覇市こどもみらい部との協力体制の打合せ ・久高島留学センターから「短期自然体験プログラム」への協力依頼（7月実施）

【寄宮中学校への教育ボランティアの関係図】



※沖大⇄寄宮(200m)

※沖大⇄繁多川公民館(2km)

「地域教育」へ展開する芽だしの活動



【教職支援スクエア】学外支援② 地域教育力の再生への学生参加

「教職実習」「教育ボランティア」を支援する拠点

→ 教職・公務員志望の学生が地域の小中学校の教育ボランティアに参加

教職支援スクエア

- 「教職実習」・・・教員志望の学生への教育実習プログラム支援、公立学校のサポートと教育キャリア形成
- 「教育ボランティア」・・・沖縄本島南部の小・中学校や高等学校への学生派遣
- 「教育メンター制」・・・退職教員で構成するメンター制度を整備、教育キャリア関係の学生相談に対応

小中学校の不登校率改善への予防的対応

- ・教職志望の学生ネットワーク「童夢会」との協力
- ・学生と子どもの共創力を高める交流プロジェクトの実施

地域教育センター

学生ユイマール・スクエア 学生同士でピアサポートしあう〈学びの空間〉の拠点

学生支援スクエア 「生活」「修学」「キャリア」を支援する拠点

子ども教育支援スクエア 「地域教育プログラム」を実践する拠点

学生・教員・職員のたまり場＝学生支援フロアを
大学の中心部につくる



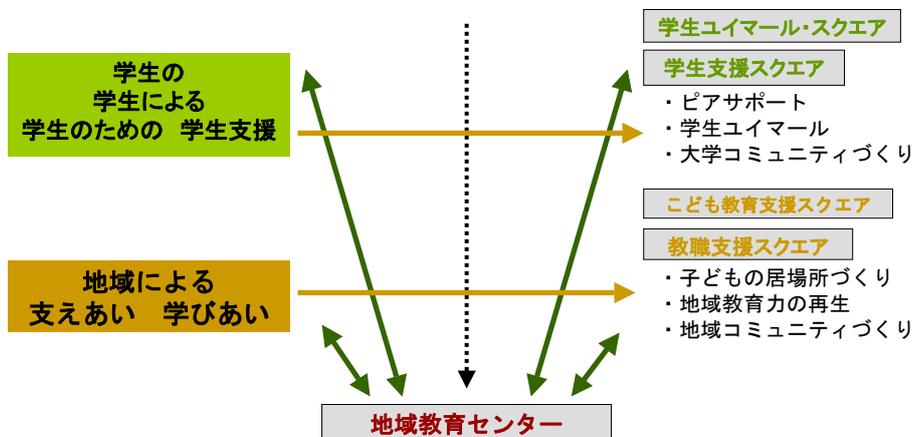
地域教育センターを構成する
4つのスクエアをその周辺に配置

学生参画企画「新キャンパス整備」

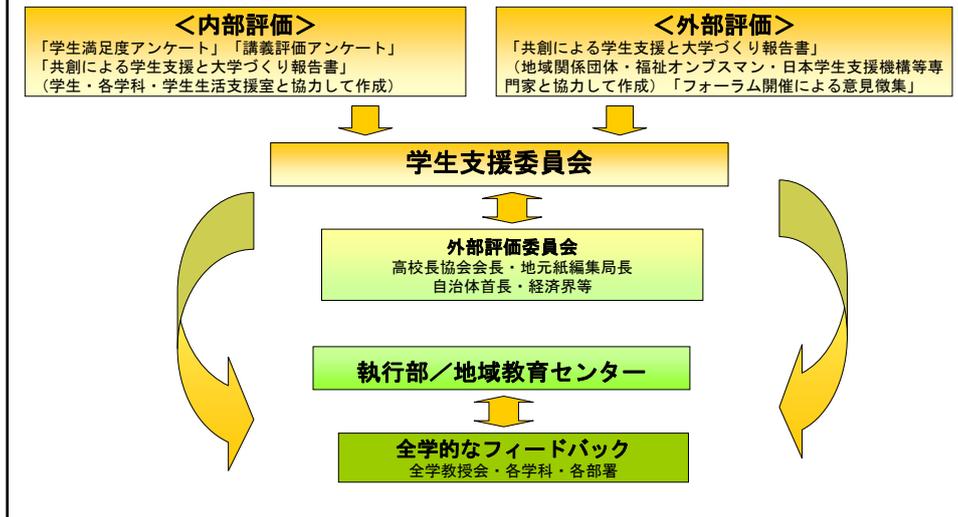


本学における学生支援（まとめ）

「競争力」から「共創力」へ



取組の評価によるフィードバック



沖縄大学
OKINAWA UNIVERSITY
2008 CAMPUS GUIDE

学生の 学生による 学生のための学生支援



それを支える大学と教職員

さらに共に支えあい、学びあう地域社会